

## 第5学年 図画工作科授業実践例

### 1. 活動の指針（活動を通して育てたい力）

#### b——ふくらむ思い

感じたことや想像したことなどのかたちや色で思いのままに表す活動を楽しみ、より心地よいもの、美しいものへと新たな思いをふくらませながら表すことを大切にしていく。

### 2. 題材名 「きらめけ！ キャンドルワールド」 ～4時間扱い～（立体に表す）



### 3. 活動の指針と題材のかかわり

5年3組の児童はとても活発で、休み時間になるとほとんどの児童が外に遊びに行くなど体を動かすのが好きである。男女とも仲がよく学校内外で遊びに誘ったり誘われたりとても仲が良い。いろいろなことに興味をもち何事にも一生懸命な児童が多い。「図工が好き」「図工をしたい」という児童が多く、絵や立体などの授業を楽しみにしている。しかし作品をつくっていく中で、できたかたちから何かに見立ててイメージを膨らませていくというのがうまくできなかった児童や、失敗したらどうしようとする児童も少なくない。また、絵も同様に何からかけばいいのかわからない、失敗したくないという思いがあり、楽しく活動することができない児童もいる。このような実態を踏まえ、粘土を使って作品をつくることにした。粘土であれば、失敗したとしても何度でもやり直しができるので安心して学習に取り組むことができる。また模様や部分の付け加えも容易である。かたちも残り愛着がもちやすいと考えた。今回の題材で自分の思いを楽しく表現できるよう取り組ませたい。今まで「ねじる」「ひもをつくる」「丸める」「ひねり出す」などいろいろな技法を学んできた。5年生の教科書題材で「曲げてねじって」という題材があり、その題材の中で、「たたら板・のし棒」を新しく用具・技法として取り上げている。今回はその新しい用具としてたたら板・のし棒を使い、粘土の板をつくり、そこから作品をつくるようにした。そしてこのたたら板・のし棒を使ってつくった粘土の板から、今回は「キャンドルスタンド」「キャンドルシェード」をつくることにした。子どもたちの作品に対する思いとして、「使えるもの」や「友達や家の人に見せられるもの」「家に飾ってられるもの」をつくりたいと耳にする。「キャンドルスタンド」は家に持ち帰って使えるものである上、粘土の板をいかして作品をつくることができると考えたからだ。また、この題材では、技法を試す中で偶然なかたちから楽しさや美しさをみつけたし、そこからイメージをふくらませて作品づくりに取り組ませることで、失敗を怖がらず、安心して自分の思いを表現する経験を積ませたい。この経験が今後の自由な表現活動に生きてくると考える。

#### 〔共通事項〕

- ア. 自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえること。
- イ. 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

#### 4. テーマに迫るための具体的な手だて

##### (1) 視点1「思いをふくらませる」

###### ○ 導入の工夫

「大きい粘土を中心にかたちをつくり、飾りを付けていくタイプ」「粘土の板を包むタイプ」「粘土の板を巻くタイプ」「粘土の板を細かく切っていく、かたち同士をつなげていくタイプ」の4つの参考作品を準備し、粘土の板を使った表現方法の幅に気づかせる。また、真っ暗な教室で参考作品のキャンドルに火をつける場面を用意し、真っ暗の中にキャンドルの光が灯る幻想的な雰囲気を感じさせ、「つくりたい」「やってみよう」という気持ちを起こさせる。

###### ○ 新しい用具・技法との出会い

たたら板とのはし棒を使って土粘土を板状にしてから作品をつくることによって、今までにつくったことのないようなかたちをつくることができる。そのことから、作品に対するイメージをふくらませることができる。と考える。

###### ○ 十分に粘土と関わる時間を確保する

作品をつくる前に、何度も粘土と関わることで偶然できた様々なかたちと出会うことができる。そして自分にとっての楽しいかたちや美しいかたちを見つけ、そこからイメージをふくらませることができる。と考える。

##### (2) 視点2「思いをかたちにする」

###### ○ 粘土の特性を知る

粘土は失敗をしても何度でもやり直しができるものである。また、土粘土の扱い方やどべの使い方を理解させることで、うまくいかない場合はやり直しができ、付け足しなども容易にすることができることを伝える。そうすることで安心して粘土と関わり、自由に表現できるようになると考える。

###### ○ ヒントコーナーの設置

今までの技法（曲げる、ねじる、折る、紐をつくる、つまみ出す等）や用具（粘土ベラ・手ぐす・どべ等）の使い方を写真と実際つくったものをヒントコーナーに準備し、自分の思いにあったかたちができるようにする。

###### ○ 鑑賞の時間の確保

作品をつくっている最中に友達の作品を見る時間をつくることで、友達のよいところ感心したところなどを見合ったり話し合ったりし、自分の思いをかたちにするヒントを得ることができる。また、活動途中でも友達の作品を見たり相談したりできるようにするために4人以上の班で作品をつくるようにし、思いをかたちにするための技法を学びあえるようにする。

#### 5. 題材のねらい

- 粘土の板を使って偶然のかたちから、楽しいかたちや美しいかたちを見つけ、新たな思いをふくらませながら「キャンドルスタンド」「キャンドルシェード」をつくることできる。

#### 6. 題材の評価規準（重観点…◎）

	造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力（◎）	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	明かりをつけた時の炎の揺らめきや美しさを楽しみにし、意欲をもってつくりたいとしている。	ロウソク立てとして明かりがともったことをイメージしながら、板状の粘土をもとに、偶然できたかたちから、キャンドルスタンドやキャンドルシェードを構想することができる。	ねん土を板状にしたよさを生かして、自分の思いに合わせて道具や技法をつかってつくりたいことができる。	友達の作品のよさや工夫を見つけていることができる。

7. 準備するもの

《子ども》 ねんど板 ねんどペラ 濡れぞうきん 新聞 汚れてもよい服 ロウソク  
 《教師》 土ねんど(1kg) ねんどペラ のし棒 たたら板 手ぐす ロウソク  
 ホットメルト

8. 指導と評価計画(4時間扱い)

時間	○活動内容 ☆★予想される子どもの姿	◆教師の働きかけ 【評価規準】…評価方法
一次 45分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">キャンドルスタンドに火を灯すと…</p> <p>○キャンドルスタンドに火がともる姿を見る。</p> <p>○キャンドルスタンドを見た感想を話し合う。</p> <p>☆作品のよさを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「とってもきれい。」</li> <li>・「明かりをつける前とつけた後では全然違う。」</li> <li>・作品をじっくり見ている。</li> </ul> <p>○キャンドルスタンドのつくり方を知る。</p> <p>☆キャンドルスタンドやキャンドルシェードをつくるのを楽しみながらつくり方を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「面白そう。」</li> <li>・「早くつくりたい。」</li> <li>・真剣に話を聞く。</li> </ul>	<p>◆参考作品を4つ準備し作品のかたちや灯のついた様子を見て、作品のイメージをふくらませるようにする。</p> <p>◆部屋を真っ暗にし、キャンドルスタンドに火をともし。</p> <p>◆幻想的なイメージが出るように雰囲気をつくる。</p> <p>◆粘土の板を見せ、板から作品を作ったことを伝え、板からキャンドルスタンドをつくることを伝える。</p> <p>◆偶然できたかたちから、キャンドルスタンドやキャンドルシェードをつくったことを伝える。</p> <p>◆かたちがうまくいなくても、何度でもやり直しができることを伝え、安心して粘土と関わるように話をする。</p> <p>◆乾くと固くなることや、乾燥させないように使わないときは濡れぞうきんをかけるなど、土粘</p>
	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">土粘土で板をつくってみよう</p> <p>○粘土から板をつくる方法を知り、粘土で板をつくる技法体験をし、粘土の板を使ってかたちづくりを楽しむ。</p> <p>☆たたら板とのし棒を使い、粘土の板をつくることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「きれいな板をつくることができたよ。」</li> <li>・たたら板の位置を変えて、のし棒を使ってい</li> </ul>	<p>◆教師が実演し、たたら板とのし棒の使い方を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2本のたたら板にのし棒しっかりとのせる。</li> <li>・いろいろな方向からのし棒で伸ばす。</li> </ul> <p>◆板状にすると表面がきれいだったり立体が作りやすかったり、厚さがそろっているからかたちがつくりやすいなど、板状にする良さを伝える。</p>

二次  
90  
分

る。  
★たたら板とのし棒が上手く使えない。  
・伸ばすときに力が入らず表面がでこぼこしている。  
・前後にのし棒を動かし長細い板しかできない。

☆粘土の板をもとに、かたちづくりを楽しむ。  
・「立てたらおもしろいかたちができた。」  
・「ひねるときれいなかたちになったよ。」  
・何度もつくっては壊し、壊してはつくりを繰り返し、かたちづくりを楽しんでいる。

- ◆4, 5人を1グループとして活動の場を準備する
- ◆板状にしたものを曲げたりねじったりしていろいろなかたちできることを体験させる。
- ◆教師が粘土の板をもとに、偶然のできたかたちから楽しいかたちや美しいかたちをつくる実演をする。
- ◆偶然できたかたちから、楽しいかたちや美しいかたちをつくり出すよう声をかける。
- ◆かたちがうまくいかなくても、何度でもやり直しができることを伝え、安心して粘土と関わられるように話をする。
- ◆乾くと固くなることや、乾燥させないように使わないときは濡れぞうきんをかけるなど、土粘土の性質を伝える。

【感】… つぶやき・活動の様子

### 板からキャンドルスタンドをつくろう

○粘土の板をもとにキャンドルスタンドやキャンドルシェードをつくる。  
☆粘土の板から何度もかたちをつくり、楽しいかたちや美しいかたちを見つけ、作品のイメージを膨らませている。  
・「何を作ろうかな。」  
・「曲げたりねじったりしていたら、いいかたちができたよ。」  
・「あまり手を加えないでシンプルなかたちがいいな。」  
・かたちをつくっては壊し、壊してはつくりを何度も繰り返して楽しいかたちを見つけようとしている。  
★何をするかわからないでいる。  
・「何を作ろう。」  
・「どうやってつくればいいのかのだろう。」  
・ボーっとしている。

- ◆楽しいかたちや美しいかたちをもとに思いふくらませて作品に取り組むよう声をかける。
- ◆作品づくりにいくつか方法があるのでどれにするか選んでもよいことを伝える。
- ◆板を切って曲げたりねじったりしてもよいことを伝える。
- ◆板でかたちをつくって終わりというわけではなく、そこから思いをふくらませて作品をつくることを伝える。
- ◆平面的なものではなく立体的なものをつくるよう声をかける。
- ◆接着やひび割れを直す用具としてとして、どべを紹介する。
- ◆参考作品を見て、どのつくり方にするか考えるように声をかける。
- ◆いくつかの方法を実際に試してから、つくるものを決めてもよいことを伝える。

<p>○楽しいかたち美しいかたちを見つけ、そこからイメージしたものをつくる。</p> <p>☆つくりたいものをイメージしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「周りにロウソクをつけるときれいになりそう。」</li> <li>・つくりたいものに合わせて板を操作している。</li> <li>・「面白いかたちができた。ここに何かを付けていこう。」</li> <li>・「板を切ってこれをねじったものを作品につけるとわかめみたいになるね。」</li> <li>・ヒントコーナーを見ながら自分の思いに合った技法を考えている。</li> </ul> <p>★つくりたいものがうかばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いいかたちができないよ。」</li> <li>・何度もつくり直している。</li> <li>・途中までできているが、そこから進まない。</li> </ul> <p>★つくりたいものが思い通りにできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壊れてしまった。</li> <li>・「頑丈にするためにはどうしたらいいかな。」</li> <li>・平面的な作品になっている。</li> </ul> <p>○活動の途中で鑑賞時間を設定し、友達のよいところ感心したところなどを見合ったり話し合ったりする。</p> <p>☆友達の作品のよさを話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「穴がいろいろなかたちでおもしろいね。」</li> <li>・友達の作品をじっくり見ている。</li> </ul> <p>○作品カードに頑張ったところや工夫を書き、作品の紹介文を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ヒントコーナーを準備し、いろいろな粘土の技法や道具の扱いし、困ったときにいつでも見に行ってもよいことを伝える。</li> <li>◆ロウソクをどこ置くか考えながら作品に取り組みせる。</li> <li>◆立って作業させるようにし、いろいろな角度から作品を見るよう声をかける。</li> <li>◆グループの友達の作品を参考にして、自分の思いをかたちにするヒントにしてよいことを伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆かたちがうまくいなくても、何度でもやり直しがきくことを伝える。</li> <li>◆子どものイメージを大切にしながら、話を聞いて支援をする。</li> <li>◆ヒントコーナーを見に行くよう声をかける。</li> <li>◆どべを使うとよいことを伝える。</li> <li>◆参考作品や友達の作品をもとに、どのようなかたちがよいか考えるよう支援する。</li> <li>◆グループの友達の作品を参考にして、つくりたいものをかたちにするための方法を使ってもよいことを伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆友達の作品の良い所や技法など、自分の思いをかたちにするヒントをもらってもよいことを伝える。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分のがんばりや工夫を具体的に書き、作品のイメージも詳しく書くように声をかける。</li> </ul> <div data-bbox="906 1948 1436 2060" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>【発】【技】… 活動の様子、つぶやき ワークシート</p> </div>
--	---

キャンドルワールドを開こう！	
<p>三 次 45 分</p>	<p>○友達の商品を見たり紹介文を読んだりして、お互いの商品の良さを味わう。</p> <p>☆友達の良いところを見つけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・このねじり方がとても面白い。</li> <li>・全体をみると建物みたいできれい。</li> </ul> <p>★いいところが見つからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふらふら歩いている。</li> <li>・関係のない話をしている。</li> </ul> <p>○ろうそくに火をつけ、部屋を暗くして鑑賞をする。</p> <p>☆光の加減や照らされる作品を見ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「火をつけると影ができて面白い。」</li> <li>・「作品の中からぼやっとした光が出てきれい。」</li> </ul> <p>○お互いの商品のよさに気づいたことや考えたことを発表する。</p>
	<p>◆点火前と後の商品のイメージの違いにも注目するよう声をかける。</p> <p>◆鑑賞カードにはいくつか鑑賞の観点を伝え、よさを見つけ出せるようにする。</p> <p>◆ホットメルトを使ってでろうそくをつける。</p> <p>◆ろうそくに火をつけてから部屋を暗くする。(安全面として)</p> <p>◆暗くなった後は、静かにゆっくり歩いて商品を鑑賞するように声をかける。鑑賞が終わったら、明かりをつけてから火を消す。</p> <p>◆友達の商品の感想や、自分の商品に明かりをともした感想など発表するよう促す。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>【鑑】</b> … 発表・鑑賞カード         </div>

## 9. 指導の実際（4時間扱い）（180分）

○学習活動 ☆子どもの姿 ★支援が必要だと思われる子どもの姿

◆教師の働きかけ

【評価規準】… 評価方法

### キャンドルスタンドに火を灯すと… （15分）

- キャンドルスタンドに火がともる姿を見て感想を出し合う。
  - ◆ 部屋を真っ暗にしてキャンドルに火を灯すことで、幻想的なイメージがもてるようにする。
- ☆ 灯がともったキャンドルスタンドを見て、思ったことを発言している。
  - ・ 「とってもきれい。」
  - ・ 「中からの灯がぼんやり出てきてきれい。」
  - ・ 「明かりをつける前とつけた後では全然違うね。」
  - ・ 「早くやりたい。」
- キャンドルスタンドやキャンドルシェードのつくり方を知る。
  - ◆ 粘土を板状にして作品をつくることを伝える。
  - ◆ 偶然できたかたちから、楽しいかたちや美しいかたちを見つけ、そこからイメージをふくらませてつくることを伝える。



### 土粘土で板をつくってみよう （30分）

- たたら板やのし棒を使って粘土から板をつくる方法を知り、粘土で板をつくる技法体験をする。また、粘土の板を使ってかたちづくりを楽しむ。
  - ◆ 土粘土の特性について伝える。
    - （ ・ 何度でもやり直せる ・ 道具や指先を使うと細かい作業もできる ・ 接着やヒビにどべが使える）
  - ◆ 教師がたたら板とのし棒の使い方を見せ、使い方を理解させる。
    - ・ 立って作業をするようにする。
      - ① 粘土をある程度の大きさに丸める。
      - ② 2本のたたら板の間に粘土を入れる。
      - ③ 2本のたたら板の上に重なるようにのし棒を置き、前へのし棒を転がしていく。
      - ④ 粘土板を動かしながら伸ばした方向へのし棒を転がす。
  - ◆ 粘土の板を起こしたり、ねじったり、曲げたりして楽しいかたちをつくる実演をする。
  - ◆ 4, 5人を1グループとして活動する場を準備する。
- ☆ たたら板とのし棒を使い、板をつくることことができる。
  - ・ 「きれいな板をつくることできたよ。」
  - ・ 「立てたらおもしろいかたちできた。」



- ★ 伸ばすときに力が入らず表面がでこぼこしている。
- ◆ 立って作業をするように声をかけ、体重をのせてのし棒を前に転がすようにする。
- ★ 前後へのし棒を動かして長細い板しかできない。
- ◆ 粘土板やたたら板の場所を動かして、伸ばしたい方向に移動させのし棒でのばす。

- ◆ りとかたちづくりを何度も繰り返し、偶然できたかたちを楽しむよう声をかける。

☆ 粘土操作を楽しんでしている。

- ・ 「ほら見て、曲げたら貝みたいなかたちになったよ。」
- ・ 「板をつくるのおもしろい。」
- ・ 「どんなかたちができるかな。」
- ・ 「うまくかたちができないや。もう一度やり直そう。」

【関】… つぶやき、活動の様子

板づく

## 板からキャンドルスタンドをつくろう (90分)

- 板状の粘土をもとにキャンドルスタンドをつくる。  
◆板状の粘土から偶然できたかたちから、楽しいかたちや美しいかたちを見つけ出し、そこからイメージを膨らませ、キャンドルスタンドやキャンドルシェードをつくるよう声をかける。

☆偶然できたかたちからつくりたいものを考えている。

- ・「ロウソクを包んでいくかたちにしよう。」
- ・「周りにロウソクをつけるときれいになりそう。」
- ・つくりたいものに合わせて板を操作している。
- ・「面白いかたちができた。ここに何かを付けていこう。」
- ・参考作品をもとに、つくりたいかたちを考え粘土を触っている。



- ◆ヒントコーナーを準備していることを伝え、今までの技法や道具の使い方を紹介する。

- ・「楽しいかたちができた。ここに板を細く切って橋をつくろう。」
- ・「ワカメを作品に置きたいから、ねじった粘土をわかめにしよう。」
- ・「屋根をつくるのに、ひもを重ねていこう。」
- ・自分の思いに合わせた技法を考えている。

- ◆子どもたちがつくっている途中声をかけ、できたかたちからどんなものをつくろうとしているか聞いた  
りする。また、悩んでいるところを聞くなどして、子どもの思いに寄り添った言葉がけをするよう心が  
ける。

★つくりたいものがうかばない。

◆参考作品を見るように声をかけ、火をつけた時の様子を思い出しながらどれがいいか決めさせる。

★いいかたちができないよ。

★何度もつくり直している。

★具体的なものをつくっている。

◆参考作品を見るように声をかけ、イメージをふくらませる。

◆できたかたちから見立てをし、どのように見えるかなどアドバイスを  
する。また、いろんな角度から作品を見るように声をかけ気に入  
ったかたちを探させる。

★途中までできているが、そこから進まない。

◆どんなもかたちをつくりたいか話を聞いてアドバイスを  
する。

◆ヒントコーナーや友達の作品を参考にし、友達の技法を自分の思いをか  
たちにするヒントにしてよいことを伝える。

◆グループの友達がつくっている作品を参考に自分の思いに合った技法を  
考える。

★壊れてしまった。

◆もう一度作り直すか、どべを使うよう声をかける。

★平面的な作品になっている。

◆キャンドルスタンドのよさを伝え、立体に作品になるよう声をかける。





- 一度作業を止めて、友達作品を鑑賞する。
  - ◆ 友達作品のいい所や技法など、自分の思いをかたちにするヒントとして使ってよいことを伝える。
  - ☆ 友達のよさを見つけ、自分思いに合うものがあるか考えている。
    - ・ 「くねくね感がとてもおもしろいな。」
    - ・ 「ひもを編むのもきれいだな。」
    - ・ 「あのひねった粘土は自分の作品の柱に使えるな。」



- 友達作品を参考にし、作業の続きをする。
  - ・ 「さっき見た、板のくねくねは階段に使えるね。」

- 作品カードに頑張ったところや工夫を書き、作品の紹介文を書く。

【発】【技】… 活動の様子、つづやき  
ワークシート

**キャンドルワールドを開こう！ (45分)**

- 友達作品を見たり紹介文を読んだりして、お互いの作品の良さを味わう。
  - ◆ 作品の見るポイントを伝え、作品を見る場所を意識して鑑賞する。
  - ☆ 友達の良いところを見つけることができる。
    - ・ このねじり方がとても面白い。
    - ・ 全体をみると建物みたいできれい。



- ろうそくに火をつけ、部屋を暗くして鑑賞をし、伝え合う。
  - ◆ 火がついた時の作品の様子や作品と明かりのイメージを感じ取り、友達に作品の良さを伝えよう。
  - ☆ 光の加減や照らされる作品を見ることができる。
    - ・ 「火をつけると影ができて面白い。」
    - ・ 「作品の中からぼやとした光が出てきれい。」

【鑑】… 発表・鑑賞カード

## 10. 活動を振り返って

本題材の導入時に暗闇の中でキャンドルスタンドに火をともしことはとても効果的だった。普段とは違う世界を体験させたことは、子どもたちの意欲につながり、自分の作品に向かう姿がとてもよく見られた。作品をつくり終えた後も「早く持って帰りたい」「家の人と一緒だったら火をつけてもいいでしょ」と最後まで関心をとぎれることなく作品に愛着をもって活動に取り組めた。また、たたら板やのし棒などの新しい用具を使うことで、興味を引いて集中して取り組めた一つではないかと考える。子どもたちは新しいものに興味を持っている。今回の題材で子どもたちは楽しんで取り組むことができたように思った。



粘土の板をもとに偶然できたかたちから思いをふくらませて作品をつくってほしいと考えた。つくり始めるにあたって、教師の参考作品を見せたりして偶然できたかたちから楽しいかたちや美しいかたちをもとに作品をつくるように声をかけた。作品をつくるまでに今回は30分程度粘土と関わる時間をもつようにした。何度も粘土と関わることで偶然できた様々なかたちと出あうことができ、それらをもとに、何をつくりたいかをイメージする力がついたように思った。しかし30分の時間をとったがもっと時間をもつと子どもたちのイメージはさらに膨らんだかと思う。あまり時間をかけすぎると土粘土が乾いてしまう恐れもあるが、この粘土と関わる時間を多くとる必要があった。

その粘土と関わる時間をもつことで、子どもたちも自ずと作品をつくるようになり、自分のイメージをふくらませていくことで、つくりながらかたちが変わっていき、かたちが変わっていくことで新たなイメージをふくらませて、つくっていくことができた。「上手にできない」「友達の方がうまいから自身が無くなった」という子どもはほとんどおらず、上手下手を意識せずのびのびと作品に取り組むことができた。

イメージがふくらまず作品に取り組めなかつたりする子どもいた。そのための手立てとして参考作品を準備したり、粘土とかかわる時間を十分とったり、ヒントコーナーとして今まで学習してきた技法の紹介や用具の使い方を紹介したりもした。また、活動途中での鑑賞も行いイメージをふくらむ取り組みも行った。それらの手立てを行うことで次第に自分のつくりたいものを表現することができた。

場の工夫として、一人でつくるのではなく4人一組で同じテーブルで作業をするようにした。子どもたちは自分の思いで作品をつくっていくが、つくっていく中で悩んだり困ったりして作業が止まる時がある。その時周りの友達の作品を見たり、相談をしたり、教えてもらいながら作業をする。そして友達から学んだ技法をもとにかたちをつくっていく、さらにイメージを広げていく。イメージを広げること



品に取り組ませたい。

でまた、かたちにしていく。つまり視点1の「思いをふくらませる(発想)」ことで視点2の「思いをかたちにする(創造的な技能)」を使い、「思いをかたちにする」ことで新たな「思いをふくらませる」ことができる。このスパイラルによって子どもたちはのびのびとした作品をつくることができた。創造的な技能を学ぶのは教師だけではなく友達同士でも学ぶことができることもこちらも気づくことができた。次の題材でも視点1と視点2の関係を意識しながら作